

日時：2021年4月15日(木)16時～18時 場所：Web会議のみ  
出席者：web会議 藤井田、細羽、村山、鈴木淳夫、窪田、森口 (記)  
(順不同・敬称略)

## 1. 前回議事録

### c. ~~AWSは基本的にDynamoDBを使用すると考えてよい?~~

窪田委員より以下、改訂要求のメールあり。

「目的に応じてDBを選定するので、特定のDBを推奨することはない。

**FHIRはドキュメントなので、DocumentDBのDynamoDBを採用している。**

アーキテクチャの決定は用途から最適なものが選択される。」

ちなみに、Amazon AWS-FHIRに関する前回議事録の記述は以下(原文通り。了承)

### AmazonのAWS—FHIRに関する窪田@AmazonのQ&A

a. {FHIR Works on AWとは}はAmazonのクラウド上でFHIRが使えるという意味?。 → その通り。

b. 「透明性のあるクライアント」「透明性のあるリポジトリ」とはどう言うことか?  
→ DBの中味は、「開発者にとって透明」。

(ちなみに、FHIRは141ものリソースがある)

d. Amazon Healthlakeでは、HIPAA対応のために、全体を暗号化できる。

参考：Architecting for HIPAA Security and Compliance on Amazon Web Service

P4：最下行 Protecting data using encryption Amazon S3

経路・保管DBは暗号化が必要。

## 2. PHRガイドラインに対する、PHR協会のパブコメを解説。

4月15日現在、パブコメ対応の発表は見当たらない(多分未発表)。

## 3. 旧労働省(現労働基準局)のICT化の動向について

デジタル庁の時代ではあるが、目立った動向はない。

## 4. 戦略会議の報告(4月1日)

1. PHR連携委員会の委員長：大神が担当となった。

2. 「IHMS委員会」の名称：「PHR技術委員会」に変更する。  
名称変更の理由：PHRとの関連で実施分野を明確化するため  
委員長は森口、副委員長は細羽で変更なし。

## 5. 今期のPHR協会の実施事項について

### A. PHR構築分野の業務事例

a. 「健診事後措置のためのICT技術及び個人情報保護法制との検討」

・産業保健業務の中核であり、特に、健診機関における中小企業向け業務ではICT化が困難で遅れている。

- ・両立支援との関連で、ICT化が必要。
  - ・業務そのものは、健診機関ごとに顧客事業所ごとに違いが大きい。
  - ・PHRと個人情報保護法制とのからみでは、「同意の獲得」が重要
- b. 「地域医療連携」においても、上記と同じ検討が必要

前田先生と検討要

#### B. PHR に関するアーキテクチャについて

- ・ネットワーク
- ・データベース構造
- ・情報セキュリティ（機密性・完全性・可用性 について）
- ・個人情報保護（取得・利用・提供・開示 等）

#### C. PHR の活用分野

匿名化 PHR の活用分野 統計的な業務 等  
紀ノ定・岡本と、次回に概要を報告する。

- ・次回は、5月13日（木）16～18時

—以上—